

## パヤオ・チェンライ出張

1月19日、チェンライ・パヤオに出張し、昨年8月に両県で実施したワークショップの成果の報告と来年度の活動に関する話し合いをしました。昨年のワークショップは、チェンライ・パヤオのMDT活動の成功要因と課題を特定するためのものでした(MDT通信39号参照)。そのワークショップの成果の分析により特定された課題を踏まえた活動計画が、去る1月13日のJCCで承認されたことを受けての訪問です。



パヤオMDTメンバーと

にと8月のワークショップの主だった参加者を招いて下さったばかりか、県全体のMDT強化のための活動計画の方向とも軌を一にすると大変前向きな対応で大いに力づけられました。また、両県からは参加者やプログラムについても具体的な提案が出され、一緒に活動していきたいという意気込みが感じられました。昨年のワークショップは開催前に両県を訪ね、一緒に計画を検討し準備のための役割分担を確認し、8月にワークショップを実施したという経緯がありました。今回の報告を持って計画から結果の共有までの一つのサイクルを通じて一緒に活動できただけでなく、その信頼感を次の活動につなげることができたことをうれしく思います。この間には本邦研修などを通じて両県の担当者とは親しくなっていたこともあり、このような複線的な関係作りが大切だと実感しました。例えば2月には両県が合同で警察官180人を対象に人身取引に関する研修を計画しているとのこと。これを計画した人も講師も本邦研修参加者で、研修を通じてネットワークが強化された成果がでていとうれしく思いました。プロジェクトでは来年度からこれまで以上に地域での活動を展開する予定ですが、地域のイニシアティブを大切にしながら活動できそう楽しみです。

新市庁舎に移転したチェンライ県事務所にて  
スプレーさん(中央)と専門家

成功要因はいくつかありますが、中でもチェンライでは弁護士、検察などとの強い連携が、パヤオでは郡レベルまたはその下の村レベルのMDTがコミュニティのリーダーとの連携が特徴的でした。さらに県や郡のMDTが、人身取引だけでなくDVや子どもの

保護にも取り組んでおり、日頃から一緒に働いていることから関係者間強い信頼関係も強みと言えます。

課題としては、両県とも、MDTメンバーの知識の強化の必要性、被害者の発掘や社会復帰に大きな力を発揮するコミュニティのリーダーの人身取引や被害者保護に関する認識向上の必要性などがあげられました。また、他のMDTとの交流の機会が少ないことも上がってきました。

プロジェクトとしては、来年度、各県で少なくとも2回ワークショップを開催すること、その中に他のMDT訪問を含めることを提案してきました。1回は既にMDTとしての活動経験のある人を対象にしたもので、これは今年度作成中のMDT実施ガイドラインを利用しながら行う予定です。もう1回は村のMDTやコミュニティリーダーに対するワークショップです。

提案はいずれの県でも歓迎されました。特に、パヤオ県では私たちの報告を一緒に聞くよう